

平成27年度第2回東金市学校教育問題検討懇談会
会議要旨

日時 平成28年2月19日(金)午前9時30分から12時15分まで

場所 東金市役所4階401会議室

出席した委員

東谷 仁 城西国際大学国際人文学部特任教授
高橋 邦夫 千葉学芸高等学校長
前嶋 里奈 東金市議会議員
相京 邦彦 東金市議会議員
三須 芳雄 東金市区長会連合会長
宮澤 敬人 源地区会長
岩崎 顯二 丘山小学校PTA会長
松寄 光孝 北中学校PTA会長
宮崎 孝男 東中学校長
石川 貢彦 福岡小学校長(敬称略)

欠席した委員

内田 武 東金中学校PTA会長
鈴木 基正 東小学校PTA学年委員長(敬称略)

事務局

櫻田教育部技監、吉井教育総務課長、松井学校教育課長、井坂学校教育課副課長、大塚学校教育課学事係長

会議概要

1. 開会(午前9時30分) 司会 大塚係長
2. あいさつ 東谷会長
3. 委員紹介 岩崎委員
4. 報告事項

懇談会要綱第5条の規定により、会議の議長は東谷会長となる。

(1)平成27年国勢調査結果速報について

井坂副課長より配付資料に沿って説明した。

東谷議長

ただいまの説明につきまして、何かご質問がありますでしょうか。

委員

東金市は人口だけで見ると減少だが世帯数は増えている。このあたりの分析はいかがでしょう。

事務局

東金市の世帯数は右肩上がりの状況にあります。城西国際大学の学生の影響もあるかと思えますし、核家族化の影響から、大家族が少なくなっているという分析になるかと思われます。

委員

就学児童世帯については、どのような状況でしょうか。

事務局

改めて人口統計を出しますが、地方創生として30年後の人口を5万人キープする取組みを進め、子育て世帯を呼び込んでいくことが、東金市にとって大事なことだと考えております。

(2)近隣市・類似市の学校数・学級数等の状況及び就学指定変更・区域外就学の現状について

大塚係長より配付資料に沿って説明した。

東谷議長

ただいまの説明につきまして、何かご質問がありますでしょうか。

委員

7ページの就学指定変更・区域外就学について、周辺自治体の基準の状況のわかる資料を、比較表の形で提供いただきたいと思います。

事務局

了解いたしました。

委員

9ページの就学指定変更の現状についてですが、日吉台小学校へ10名、東小学校から変更して多いと感じますがこの理由についてお伺いします。

事務局

松之郷地区の一部の方が、本来は東小学校が指定校ですが通学距離を考慮し、日吉台小学校へ変更したものでございます。

委員

7ページの「2 地理的事由によるもの」(1)の「教育委員会が別途指定した地域」というものに関する資料はございますか。

事務局

お手元の資料には配付しておりませんので、次回ご用意いたします。

委員

9ページ以降の資料を見ていきますと、例えば北中の学区で教育委員会が決めた学区の中で私の計算だと47名位の方が他の中学校に変更しているという現状、それと、日吉台小学校に関しても城西小、丘山小、東小などの学区の16名の子どもたちが日吉台小に変更していると、そういう解釈でよろしいでしょうか。

事務局

委員のおっしゃった解釈で結構でございます。

委員

東金中学校ですが、東中学校から36名、西中学校から30人という大量の生徒が変更していますが、これは以前の懇談会で協議された平成22年より、それ以前の東金市内の学校編制の際に特例として認めていたということでしょうか。

事務局

こちらは平成20年に審査基準の見直しをした際に、東小学校と城西小学校の学区の一部に鶉嶺小学校を選択できるエリアを設定しまして、鶉嶺小学校を選択したお子さまが中学校にあがる際に、小中学校の継続を理由としまして本来の指定校ではなく東金中学校を選択した結果、このような人数になったものでございます。

委員

学区を越えていく場合の理由についてですが、各児童のプライベートな部分に抵触しない範囲でもう少し具体的に知りたいところですがいかがでしょうか。

事務局

資料7ページの「4 教育的配慮によるもの」の、例えば(2)の他の児童生徒との関係で深刻な悩み等を持ちまして、就学校における十分な指導にもかかわらず転校を希望する場合ということで、児童生徒間のトラブルに対し、学校側の指導・配慮をしてもなお解決しない場合に認めているような例がございます。

委員

理由は資料でわかりますので、理由別の人数・割合を示していただければ、理解しやすいのでいかがでしょうか。。

事務局

次回、ご用意いたします。

委員

9ページの資料ですが、中学校の指定変更の合計が91人、小学校が151人と出ておりますが、ここ最近の5年間の傾向というか、恒常的に毎年このような数字なのか、遡って教えていただきたいのですが。

事務局

そのあたりの詳細な分析は、本日持ち合わせておりませんので、次回、ご提示したいと思います。

委員

委員のお話に関してですが、5年位前からではなく、もう少し古いものをできればいただきたい。と言いますのは、例えば源地区の子どもたちが北中学校学区ですが山武南中に行くという現状があるのは、例えば道路条件が整備されたから移っていったものなのか、そういうのが分かると思うんですね。3・4年前でなく、もう少し古いデータがあればいただきたいのですが。

事務局

ご提示できるかどうか確認したいと思います。

5. 協議事項

(1) 学校適正規模等に関するアンケート調査実施要領（案）について

大塚係長より配付資料に沿って説明した。

東谷議長

ただいまの説明につきまして、何かご質問がありますでしょうか。

委員

調査内容ですが、もう少し具体的に教えていただきたいのですが。

事務局

まず、保護者自身についてですが、保護者の年齢、お子様の通っている学校名などについて伺います。学級数・学校規模等につきましては、それぞれ小学校・中学校別にどの位の学級数が望ましいかということ具体的な学級数に丸をつけていただく、通学距離につきましても、こちらで何キロかを示してどの位が望ましいか選択いただく。学校の適正配置につきましては、今後、東金市がどうやって適正配置を進めるか。このままで良いか、順次適正配置を検討していくべきだというような意向をお聞きし、その理由を選択肢を設けて選んでいただく。また、再編した場合の空き施設などをどのような形で活用するのが望ましいか、最後に自由意見をいただく形としています。簡潔で保護者にとって負担の掛からないものとして、なるべく回答率を上げたいと考えております。

委員

丘山小学校について、人数が少ないので廃止・統合されるのではないかという声が保護者の間で出ています。最も大切なのは、我々が廃止されるかもしれない学校の保護者に不安を与えないこと。例えば空き施設の活用というような廃止がイメージ・連想される質問、言葉の使い回しで地域・保護者の不安を、意図せずとも煽らないように十分考慮していただきたいと思います。

事務局

先行自治体のアンケートを参考に作成しましたが、空き施設の活用という質問について省いたほうが良いとの意見があれば省いていきたいと思います。

委員

一般論で聞いたら、皆さん家の近くの学校に行きたいというでしょう。そういう模範的な回答をいただいても仕方ない。例えば源地区は北中学校にスクールバスが出ていますが、距離はどうかと聞いたときに、バスに乗るなら10キロでも20キロでも行けますよというような条件がついた意見があるかもしれない。私自身で具体的な考えは用意していないのですが、出てきたアンケートに条件がたくさんついてしまうようなことのないよう、考慮していただければと思います。

委員

誤解があるといけませんので申し上げますと、このアンケートに関しては賛否を問うものではなく、実態調査として保護者の実態を吸い上げて分析しましょうということで行うと思いますが、その過程でなるべく不安を与えないで欲しいということで申し上げましたので、誤解のないようにお願いします。

委員

不安は恐らく2種類あると思います。学校がなくなることの不安で地域の方に対するもの、一方で学校が残ることの不安で保護者や子どもに対するもの、非常に小規模の学校が地域のエゴで残ってしまい、十分な教育が受けられないというものがあるかと思います。

学校の適正配置等に関する設問の有無・表記について、引き続き検討することとし、実施時期を次年度にずらすこととした。

東谷議長

学校適正配置の設問の聞き方、複数パターン等のいろいろなご意見があるかと思えますので、事務局に意見を寄せていただいて、次回事務局から改めて提案いただければと思います。

委員

アンケートのスケジュールについてですが、次回の会議で決定してから配付するまでの期間をできるだけ取っていただきたいとの要望です。現場としましてはPTAの本部役員等に事前に説明し、配付することにより、混乱を解消したいと思います。

(2)学校視察について（源小学校・丘山小学校・福岡小学校）

マイクロバスにて、源小学校、丘山小学校、福岡小学校の順で現場を視察した。

東谷会長

現場視察を終えまして、何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

それでは協議事項は終了させていただきまして、議長の役を降ろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

6. その他

事務局から検討懇談会の会議要旨及び資料の公表について提案し、市ホームページに掲載していくこととした。

以上